

奇跡の復興米の取り組みについて

「震災を風化させず、次世代にも伝えたい」という思いのもと
復興米の栽培に取り組んでまいります。

○2年目の 2015年

昨年収穫した種粒を市内全16の小学校5年生(968人)に、JA大阪南が「復興米のバケツ稻栽培キット」を贈り栽培しました。

喜志小学校と東条小学校の教育田においての栽培やJA青壮年部、喜志子ども会等においても1haの水田で栽培し、3500kg収穫できました。そのお米の一部750kgを11月16日に大槌町に里帰りさせ、小学校の給食に出されました。また、11月23日の富田林市農業祭において、市内の児童たちによる「奇跡の復興米」をめぐる劇を演じ、大槌町へエールを送りました。

○3年目の 2016年

前年同様、喜志小学校と東条小学校での栽培や子ども会、JA青壮年部等での栽培に加えて、より多くの方々に「震災を風化させず、次世代にも伝えたい」思いと食農や防災への意識も高めてもらうため、親子での復興米の栽培への参加を計画し、80名程度の「親子田植・稻刈り農業体験ツアー」を募集し、収穫した米の一部を被災地へ贈呈しました。

大槌町への里帰りと熊本地震の被災地益城町へも復興米を、それぞれ300kg贈呈しました。



○4年目の 2017年

喜志小学校と東条小学校での栽培や子ども会、JA青壮年部等での栽培に加えて、より

多くの方々に「震災を風化させず、次世代にも伝えたい」思いと食農や防災への意識も高めてもらうため、前年同様「親子田植・稻刈り農業体験ツアー」を実施しました。

収穫した米の一部は、富田林市農業祭でおにぎりとして 700 個の配布、市内小学校 16 校に、「バケツ稻づくり」で奇跡の復興米の栽培、「バケツ稻づくり」の参加小学校に玄米 1 本 30kg を贈呈しました。

大槌町への里帰りと熊本地震の被災地益城町へも復興米を、それぞれ 300kg 贈呈しました。

○5 年目の 2018 年

喜志小学校と東条小学校での栽培や子ども会、JA青壯年部等での栽培に加えて、引き続きより多くの方々に「震災を風化させず、次世代にも伝えたい」思いと、食農や防災への意識も高めてもらうため、復興米の「親子田植・稻刈り農業体験ツアー」を実施しました。

収穫した米の一部は、富田林市農業祭でおにぎりとして 700 個を配布、市内小学校 16 校に「バケツ稻づくり」で奇跡の復興米の栽培、「バケツ稻づくり」の参加小学校に玄米 1 本 30kg を贈呈しました。

大槌町への里帰りと熊本地震の被災地益城町へも復興米を、それぞれ 300kg を贈呈、食育・こども支援事業に協力の高鷲学園に、精米 30kg を進呈しました。また、天王寺動物園に、稻わら 200kg を進呈し、その稻わらは、動物の飼育管理用として利用されています。



○6 年目の 2019 年

喜志小学校と東条小学校での栽培や子ども会、JA青壯年部等での栽培に加えて、引き続きより多くの方々に「震災を風化させず、次世代にも伝えたい」思いと、食農や防災への意識も高めてもらうため、復興米の「親子田植・稻刈り農業体験ツアー」を実施しました。

収穫した米の一部は、富田林市農業祭でおにぎりとして 700 個を配布、市内小学校 10

校に「バケツ稻づくり」で奇跡の復興米の栽培、「バケツ稻づくり」の参加小学校に玄米1本30kgを贈呈しました。

大槌町への里帰りと熊本地震の被災地益城町へも復興米を、それぞれ300kgを贈呈、食育・こども支援事業に協力の高鷲学園に、精米30kgを進呈しました。また、天王寺動物園に、稻わら200kgを進呈し、その稻わらは、動物の飼育管理用として利用されています。

○7年目の2020年

コロナ禍の中、喜志小学校と東条小学校での栽培や子ども会、JA青壮年部等での栽培を実施しました。

収穫した米の一部は、市内小学校16校に「バケツ稻づくり」で奇跡の復興米の栽培、「バケツ稻づくり」の参加小学校に玄米1本30kgを贈呈しました。

大槌町への里帰りと熊本地震の被災地益城町へも復興米を、それぞれ300kgの贈呈、食育・こども支援事業に協力の高鷲学園に、精米30kgを進呈、こども食堂活動に食材支援として150kgを贈呈しました。また、天王寺動物園に、稻わら200kgを進呈し、その稻わらは、動物の飼育管理用として利用されています。

○8年目の2021年

新型コロナウイルス感染拡大の影響は大きく、小学校の休校や外出規制等があったため、予定していた事業活動が十分に実施できませんでした。

前年同様、市内小学校の学校教育田栽培や子ども会など地域団体とJA青壮年部等の協力で奇跡の復興米栽培を実施しました。残念ながら小学生による田植え・稻刈りについては、実施できないところもありましたが、市内小学校16校の5年生(874名)が、バケツ稻で奇跡の復興米を栽培しました。

大槌町への里帰りとして、大槌町学校給食センターへ復興米300kgを進呈、熊本地震の被災地益城町へも復興米300kgを贈呈しました。益城町については新庁舎が完成し、復興がひと段落したとのことで、お米の支援は今回2021年を最後に終了することとなりました。また、天王寺動物園に、稻わら200kgを進呈し、その稻わらは、動物の飼育管理用として利用されています。

東日本大震災から10年目を迎える2021年は、震災の風化を防ぎ、大槌町と本市との「絆」を育むために、新たに、高辻台小学校・寺池台小学校・富田林小学校・藤沢台小学校の小学校5年生が、新たに学校内にミニ水田を設置して栽培を行うことになりました。

○9年目の 2022年

新型コロナウイルス感染の影響はありましたが、予定していた事業活動は十分に実施できました。

- ・「奇跡の復興米」学校教育田栽培を実施

前年同様、市内小学校の学校教育田栽培や地域団体とJA青壯年部等の協力で奇跡の復興米栽培を実施しました。

- ・「奇跡の復興米」バケツ稻栽培の実施

富田林市立小学校 16 校の 5 年生(712 名)の取組として復興米バケツ稻栽培を実施しました。

- ・「奇跡の復興米」学校内教育田栽培の実施

富田林市立小学校 5 校（富田林・高辺台・寺池台・藤沢台・新堂）で学内にミニ水田を設置し栽培しました。

- ・大槌町への里帰りとして大槌町学校給食センターへ復興米 300 kg を進呈しました。

- ・恒例となっている天王寺動物園への「復興米の稻わら」進呈を実施しました。

- ・「富田林市農業祭」に参加、岩手県大槌町平野町長が来訪されました。復興米パネル展示コーナーを設置し、岩手県の物産などを PR 販売しました。

- ・富田林市役所内にて「被災地から学ぶ防災パネル展」に、奇跡の復興米パネルを展示しました。

- ・JA 大阪南の地域貢献活動の一環として、JA 大阪南青壯年部の地域貢献活動で児童養護施設高鷲学園へ訪問した際、地元産の野菜と奇跡の復興米 30 kg を提供しました。

○10年目の 2023年

- ・「奇跡の復興米」学校教育田栽培を実施

4 団体による教育田において栽培を実施しました（喜志小学校・東条小学校・河南さくら小学校・喜志地区団体「こども食堂「ほっとスペースとんだばやし」・喜志っ子クラブ」）

- ・「奇跡の復興米」バケツ稻栽培の実施

富田林市立小学校 16 校の 5 年生 (835 人) の取組として復興米バケツ稻栽培を実施しました。

- ・「奇跡の復興米」学校内教育田栽培の実施

富田林市内小学校 4 校（富田林・高辺台・寺池台・新堂）で学内にミニ水田を設置し栽培しました。（苗提供）

- ・大槌町への里帰りとして大槌町学校給食センターへ復興米 300 kg を進呈しました。

- ・恒例となっている天王寺動物園への「復興米の稻わら」進呈を実施しました。

○ 1 1年目の 2024 年

- ・「奇跡の復興米」学校教育田栽培を実施

4団体による教育田において栽培を実施しました（喜志小学校・東条小学校・河南さくら小学校・喜志地区団体「こども食堂「ほっとスペースとんだばやし」・喜志っ子クラブ」）

- ・「奇跡の復興米」バケツ稻栽培の実施

富田林市立小学校 16 校の 5 年生 (836 人) の取組として復興米バケツ稻栽培を実施しました。

- ・「奇跡の復興米」学校内教育田栽培の実施

富田林市内小学校 4 校（富田林・高辺台・寺池台・新堂）で学内にミニ水田を設置し栽培しました。（苗提供）

- ・大槌町への里帰りとして大槌町学校給食センターへ復興米 300 kg を進呈しました。

- ・恒例となっている天王寺動物園への「復興米の稻わら」進呈を実施しました。

・JA 大阪南の地域貢献活動の一環として、JA 大阪南青壯年部の地域貢献活動で児童養護施設高鷺学園へ訪問した際、地元産の野菜と共に奇跡の復興米 30kg を提供しました。

○ 1 2年目の 2025 年

- ・「奇跡の復興米」学校教育田栽培を実施

4団体による教育田において栽培を実施しました（喜志小学校・東条小学校・河南さくら小学校・喜志地区団体「こども食堂「ほっとスペースとんだばやし」・喜志っ子クラブ」）

- ・「奇跡の復興米」バケツ稻栽培の実施

富田林市立小学校 16 校の 5 年生 (818 人) の取組として復興米バケツ稻栽培を実施しました。

- ・「奇跡の復興米」学校内教育田栽培の実施

富田林市内小学校 5 校（富田林・寺池台・高辺台・久野喜台・新堂）で学内外に水田を設置し栽培しました。（苗提供）

- ・大槌町への里帰りとして大槌町学校給食センターへ復興米 300 kg を進呈しました。

- ・恒例となっている天王寺動物園への「復興米の稻わら」進呈を実施しました。